

# Neuropsychological tests are useful for predicting comorbidities of idiopathic normal pressure hydrocephalus

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蒲原, 千尋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002935">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002935</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2620 号

Neuropsychological tests are useful for predicting comorbidities of idiopathic normal pressure hydrocephalus

神経心理検査は特発性正常圧水頭症の併存疾患を予測することに有用である

蒲原 千尋 (かもはら ちひろ)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、神経心理検査評価を用いて、特発性正常圧水頭症 (iNPH) に併存しうる疾患の有無を予測することを目的として行われた。

iNPH は高齢者に発症し、脳脊髄液 (CSF) の吸収障害により歩行障害、排尿障害、認知障害の 3 徴に代表されるさまざまな神経障害を伴う。アルツハイマー病 (AD) やパーキンソン関連神経変性疾患 (PS) など神経変性疾患が併存する場合がありますとされ、唯一のエビデンスをもつ CSF シェント治療の長期予後に影響する。しかし併存疾患の有無は、初期神経症状からは判断が困難であり、核医学などの高価な画像検査による補助診断は、必ずしも施行可能でない。

そこで、iNPH ガイドラインに準じて診断した 49 人の Probable iNPH 患者を、リン酸化タウ (Ptau30pg/mL 未満) とドーパミントランスポーターシンチグラフィ (specific binding ratio, SBR $\geq$ 3.0) で、併存神経変性疾患のない iNPH (グループ 1)、AD 併存 iNPH (グループ 2)、PS 併存 iNPH (グループ 3) の 3 群に分類した。術前 4 つの神経心理検査をヨーロッパ重症度分類 (EU-iNPH-Scale) に基づいて換算し、3 群間を比較した。

この結果、EU-iNPH-Scale は、iNPH と併存疾患の有無を区別し得たと言えた [AUC 0.787 (グループ 1 vs 2) と 0.851 (グループ 1 vs 3)]。

神経心理検査評価を通して、iNPH の併存疾患を予測し得た本研究結果は、有用なエビデンスとして、今後 iNPH 診断に広く用いられることになることと確信する。また、12 か月間と短期の CSF シェント介入結果ではあるものの、神経心理学的な予後を明らかにした功績は大きく、iNPH 研究の先駆者である北欧より提唱された EU-iNPH 重症度スケールの神経心理学検査が、併存疾患の特定を可能にするものであることを証明した。本論文は、北欧の歴史ある神経学雑誌で受理され、2020 年にパブリッシュされており、iNPH の診断検査として、神経心理学検査が再注目されるエビデンスの一つとして重要な役割を担う報告となった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。